



平成29年度 京都大学大学院エネルギー科学研究科 公開講座

『エネルギー科学の今』

～ リスク制御とものづくり～

日時

10月28日(土) 13:00～16:00

(15:00から1時間程度、講師を囲む意見交換会を予定)

場所

京都大学総合研究8号館 講義室1

総合研究8号館の建物には南側出入口からお入りください

1. 技術システムのリスク制御 としての監視／監査

教授 吉田 純

エネルギー技術やICT(情報科学技術)に典型的にみられるように、現代の技術システムは、それ自体が新たなリスクを産出すると同時に、リスク制御の可能性の条件をも産出するという両面性をもっています。リスク産出の拡大とリスク制御の可能性の拡大というこの両面性は、科学技術に依存する現代社会がもつ本質的な二律背反でもあります。そのような現代社会に固有の活動として、この講演では、監視／監査という2種類の活動にとくに注目します。これらの活動がリスク産出に対処しつつ、リスク制御の可能性を具体化していることを、情報システムを具体例として、システムの「相補的観察」という理論モデルを用いて説明します。



お問い合わせ先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学エネルギー科学研究科総務掛

TEL: 075-753-4871 FAX: 075-753-4745

アクセス

市バス：系統31・65・201・206「京大正門前」下車

系統3・17・203「百万遍」下車

京阪電車・叡山電鉄「出町柳」下車 徒歩20分

2. あまりエネルギーを使わない ものづくり

教授 平藤 哲司

「世界最高性能の太陽電池材料をいかにしてつくるか」というお話なら、魅力的でわかりやすいでしょう。最高性能の材料の多くは、私たちが生活している環境とは大きく異なる真空に近い邪魔者のない環境で、原子を精密に積み上げるような方法でつくられます。このような作製法は高エネルギー消費であり、広く普及する材料の作製に適しているとは限りません。この講演では、ちょっとわかりにくいかもしれませんが、「そこそこ高性能な材料をあまりエネルギーを使わないでつくる」というお話をしたいと思います。通常環境で取り扱える水溶液を用いて薄膜や微細構造を形成するプロセスについて紹介します。